

@心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課
長野市大字南長野字幅下692-2
電話番号：026-235-7436

令和８年度 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会 第１回

令和８年７月８日（水）オンライン開催

＜構成員＞※敬称略

座長　荒井 英治郎　信州大学教職基盤構築センター准教授

- 近藤 守　長野県学校給食会 理事長
- 中澤 俊喜　長野市立 東北中学校長
- 宮原 理恵　飯山市立 飯山小学校長
- 倉石 仁志　東御清翔高等学校長
- 髙橋 利子　佐久市教育委員会
- 小松 亨　塩尻市教育委員会
- 篠田 阿依　NPO法人 Hug理事長
- 中村 里子　一般社団法人 おもがえっコ代表
- 中島 壮太　一般社団法人 ユースセンター オレンジファム代表

本懇談会は、不登校の児童生徒が自分らしく学び続けられるよう、支援の充実を図ることを目的として開催しています。多分野の有識者が現場の声を踏まえながら、教育支援センターの機能拡充やアウトリーチ支援、オンライン学習の活用などについて協議し、家庭・学校・地域が連携して子どもの学びを尊重する仕組みづくりを進める重要な場となっています。これまでの懇談会の成果は、不登校支援ガイドブック『はばたき』Vol.１～３にまとめられています。



第１回懇談会（7.8）のおもな論点と協議内容

１.おもな論点

安心して過ごせる学校づくりや校内教育支援センターの充実、家庭への支援やアウトリーチ、多様な学びの場との連携、県教委での運用が始まるメタバースを活用した新たな支援の可能性などについて幅広く議論し、子どもを中心とした支援体制の充実に向けた方向性を協議した。

２.意見交換（おもな発言）

近藤委員：学校復帰を前提とせず、子どもの思いを丁寧に把握し、学びの場につなぐ視点の必要性
宮原委員：家庭支援や送迎支援、家庭に閉じこもってしまう子どもへの支援の充実が課題
倉石委員：高校における落ち着ける場所や支援体制の不足。不登校生徒を支える環境整備と人材確保
中澤委員：校内教育支援センターを教室復帰のためではなく、自分らしく過ごせる居場所として再構築
篠田委員：居場所の需要が高まる中、命を支える多様な地域資源や居場所の拡充が必要
中島委員：学校と支援機関の連携、オンラインを活用した新たな学びとつながりの可能性の拡大
中村委員：不登校の理解、子どもの困り感を丁寧に聴き取るための専門性を高める必要性
髙橋委員：不登校の低年齢化、早期から相談先や学びの場の情報共有、支援につながる仕組みづくり
小松委員：「誰ともつながっていない子ども」をなくすこと。地域連携による継続的な支援体制の構築

意見交換と議論の流れ

1. 誰ともつながれていない子どものための支援の在り方

- 家から出ることが難しく、接点を持てない子どもには、来所を待つだけでなく、支援員やSSW等によるアウトリーチを通じて継続的なつながりを維持していくことの重要性が共有されました。
- メタバースについては、相談の場のみならず、交流や体験、趣味活動などを通して自然につながることのできる居場所として活用する視点が示され、子どもに届く発信方法や参加しやすい仕組みについて議論されました。
- 家庭支援については、保護者への寄り添いや情報提供、支援機関との連携が不可欠であり、子ども本人だけでなく家庭全体を支える視点の必要性が共有されました。

2. 多様な学びと居場所を支える校内外の支援環境の充実

- 小学校１年生の不登校数増加については、学校が「安心して人と関われる場」であることを再確認する必要があるという指摘がありました。校内教育支援センターが教室復帰のためではなく、子どもが安心して自分らしく学べる居場所として運営していくことの重要性が示されました。
- フリースクール、校内教育支援センター、市町村教育支援センターなど、それぞれが異なる特色や役割を持つことで、子どもが自分に合った学びの場や居場所を選択できる環境づくりの必要性が議論されました。
- 校内教育支援センターや教育支援センターの運営においては、人的配置や専門性の確保が大きな課題であり、支援の質を維持・向上させるための体制整備の必要性が共有されました。



3. これからの不登校支援に求められる考え方と連携の方向性

- 不登校を問題行動として捉えるのではなく、子どもの困り感や背景を理解しながら、ウェルビーイングや社会的自立を支える視点で支援を考えていくことの重要性が確認されました。
- 学校、教育委員会、フリースクール、福祉関係機関等が相互の役割を理解し、子どもを中心に据えた連携体制を構築することの必要性が議論されました。
- フリースクールや校内教育支援センター等での学びをどのように見取り、支援や評価につなげていくかについて意見が交わされ、出席扱いや学習評価の在り方についても今後の検討課題として共有されました。

家から出ることが難しい子どもとのつながりをどのように築くかをはじめ、メタバースを含む新たな支援の可能性や、教育支援センターを安心して過ごせる居場所として充実させていくことについて議論が行われました。また、多様な学びの場の、それぞれの強みを生かしながら連携し、子どもの困り感やウェルビーイングを中心に据えた支援を進めていく必要性が共有されました。さらに、不登校支援を取り巻く状況の変化を踏まえ、これまでの取組みを整理するとともに、今後の支援の方向性をどのような形で示していくことが望ましいかについても意見が交わされました。



今回の懇談会の様子を動画で閲覧できます。
https://x.gd/ost5j
（閲覧期間令和８年11月30日まで）

下記ＨＰに、令和３年度からの過去の懇談会の要旨や資料を詳しく掲載しています。

不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会／長野県教育委員会
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/shido/ijime/manabinokeizokushienn.html